

令和 6 年度 大学活性化経費 事業成果報告書

事業区分 (1)、(6)

申請組織 生活科学部

申請組織長 役職名 生活科学部長 氏名 藏澄 美仁

統括責任者 役職名 管理栄養学科講師 氏名 三田 有紀子

課題名 管理栄養学科キャリアモデルセミナー

事業組織	役割	氏名	所属・役職名	役割分担
	統括責任	三田 有紀子	生活科学部 講師	統括、講師依頼、学生への周知等
		伊藤 愛	生活科学部 助手	会計、学生への周知等

1. 事業開始の背景・経緯や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

女性は、卒業後 30～40 代にかけて結婚・妊娠・出産・子育てなどのライフイベントが多く、ライフスタイルは男性以上に大きく変化する。このことから学生の間にキャリアデザインを具体的にシミュレーションすることが重要であると考えられ、4 年生や卒業生から就職後のキャリア形成に不安があるとの声から着想して企画したものである。

本セミナーでは、本学卒業後 10 年以上経過して、各分野でキャリアを積んでいる卒業生を講師として招き、今までのキャリアの軌跡や仕事内容、ライフスタイルなどを中心に講演いただいた。

2. 事業方法（特色・独創性）等 (300 字程度で記述)

管理栄養士養成課程を有する近隣大学のキャリアデザインを目的としたイベントは多々行われているが、この事業では本学卒業生によるキャリアデザインであり、卒業後のイメージが付きやすいと考えられる。また、近隣大学と比較して多くの卒業生を抱えていることから、バリエーション多く考える機会が得られる。事業は、今年度計3回実施し、食品企業、行政、医療施設で管理栄養士またはそれに関わる仕事に携わっている者を講師に迎えた。対象は、管理栄養学科 3、4 年生および卒業生を中心としたが、低学年の参加を妨げない形で実施した。

3. 事業の成果（600 字～800 字程度で記述）

本事業は、第 1 回を 2024 年 11 月 9 日（土）、第 2 回を 2024 年 12 月 7 日（土）、第 3 回を 2025 年 1 月 11 日（土）の計 3 回実施した。

第 1 回は食品企業で活躍している野田真理子氏（2003 年度食品栄養学科卒業生）に依頼した。野田氏は大学卒業後、株式会社明治に入社し、出産、育児を経て、現在企画部ダイレクトリレーション課に所属し、明治スポーツ栄養セミナーの講師としても活躍している。今回のセミナーでは、「私なりの両立生活～苦手を仕事にするのも悪くない～」をテーマに企業での働き方などお話しいただいた。参加者は 29 名であり、その内卒業生は 2 名であった。

第 2 回は医療施設で管理栄養士として活躍している池田衣里氏（2013 年度管理栄養学科卒業生）に依頼した。池田氏は大学卒業後本学科助手を務め、その後桑名市総合医療センターの管理栄養士として転職、現在は病院での管理栄養士業務と併せて、臨地実習での学生対応など幅広く活躍している。池田氏には「病院栄養士としてのキャリアとワークライフバランス」をテーマに、病院での働き方や転職に至った経緯などを講演していただいた。参加者は 46 名であり、卒業生はその内 3 名であった。

第 3 回は行政で管理栄養士の技官をされている黒柳桂子氏（1991 年度食物学科卒業生）に講演いただいた。黒柳氏は、大学卒業後老人施設や病院勤務を経て、出産、育児を機に食育活動をスタートさせ、その後現職である岡崎医療刑務所へ転職された。昨年「めざせ！ ムショラン三ツ星 刑務所栄養士、今日も受刑者とクサクないメシ作ります」（朝日新聞出版）を出版され、「落ちこぼれ女子大生が公務員管理栄養士+αの働き方で出版の夢をかなえました！」をテーマにお話しいただいた。参加者は 18 名であり、内卒業生は 9 名が参加した。

各回それぞれ個性あふれる内容であり、学生、卒業生ともにキャリア形成を考える機会となり、質疑応答の時間ではいずれも多く質問が出された。また、それぞれの先生から個別での質問にも対応いただき、貴重な機会が得られたと考えている。

4. キーワード（本事業のキーワードを 1 つ以上 8 つ以内で記載）

①管理栄養士	②栄養士	③キャリアデザイン	④女性
⑤ライフスタイル	⑥リカレント教育	⑦	⑧

5. 事業の達成状況及び今後の課題（事業の達成状況を踏まえて、課題、反省点、及び今後の取組みを具体的に記載すること。）

今回本事業の達成としては、十分にできたと考えられる。しかしながら、在学生、卒業生ともに出席するものが少ないため、来年度は一部を 3 年生の専門演習や 4 年生のゼミ活動の一環として加えることを考える必要がある。ただし、このような機会は非常に貴重であり、管理栄養士養成課程を持つ近隣大学と比較して人材が豊富であることから、本学科を PR する材料になるようある程度継続することを念頭にとる組む必要がある。